

母と子の体育プログラムに通う母親の意識調査

—— 児童館における実施状況 ——

久本信子

(夙川学院短期大学)

1. 研究目的

近年、子どもの遊びについては、子どもの発達や環境面より、様々な問題が提起されている。これらの問題に対して、地域社会の中で積極的に活動を行っている機関として、児童館がある。児童館活動の中で、昭和53年より、体力増進機能を持つ児童センターが都市部に創設された。児童センターは、従来の子童館活動に加えて、幼児児童に対して、運動に親しむ習慣の形成や、体力増進を図るための活動を、遊びの形態を取って行っている。この中には、母と子で参加する幼児体育プログラムがある。この体育プログラムの指導の中で、近年特に参加する幼児の低年齢化傾向が見られるようになった。この背景には早期より子どものいろいろな可能性を伸ばしたいという母親の願望があるように思われる。この願望は、体育プログラムに対する期待の多様化にもつながってきているのではないかとこの疑問が生じた。そして子どもに対する要求内容の変化から、母親の期待の多様化が生じてきたのではないかと推測するようになった。

以上のような問題を考察するための研究プログラムにおいては、最初に次のような基礎事実を知る必要がある。

- 1) 体育プログラムに対する要望
- 2) 母親の教育観
- 3) プログラムに参加する母と子の生活環境

本研究は、児童館の母と子の体育プログラムに参加している母親の意識を、アンケート調査を通じて客観的に把握することにある。

2. 調査方法

調査対象：兵庫県南部で体育プログラムを実施している児童館に通う母親635名（男児の母親326名、女児の母親309名）

調査時期：平成2年3月～12月

調査方法：アンケート調査による質問紙法。郵送にて回収。回収率58.7%

調査内容：体育プログラムに関する質問（10項目）
 子どもの遊び環境と習い事（8項目）
 母親に関する質問（2項目）
 その他（6項目）

3. 調査結果

①体育プログラムに参加している幼児の年齢

児童館の母と子の体育プログラム（以後「親子体操」と呼ぶ）に参加している子どもは、男児51.3%、女児48.7%であった。年齢構成は3才が41.3%、4才が42.3%で最も多く、次いで2才、5才の順であった。

②体育プログラムに通う目的（複数回答）

全体では、「集団生活に慣れさせる」が90.9%で最も高く、「積極性を身につける」44.7%、「体力作り」29.8%、「健康のため」29.6%、「就学前に役立つ」29.0%の順であった。男女別に見ると、1位の「集団生活に慣れさせる」では差は殆ど見られないが、「健康のため」「体力作り」「自立心をつける」といった内容では女児の方が高い。それに対し「就学前に役立つ」という内容では、男子の方が高い。

③体育プログラムを始めた理由（複数回答）

「費用がかからない」が66.0%で最も高く、次いで「家から近い」52.1%、「友達がやっている」43.8%がその理由として挙げられる。

④体育プログラムに参加した母親自身の理由（複数回答）

「子どもとのコミュニケーションに役立つ」が73.9%で最も高く、次いで「子どもと一緒に動くことが楽しい」47.4%「交友関係が広がる」46.8%などであった。これらの内容は、母親自身楽しんで参加していることを示す。しかし、「動くことは負担であるが、子どものために参加する」という母親が2割弱ほど見られた。

⑤体育プログラムの週当たりの回数

74.5%の母親は「週1回が適当である」と考えている。さらに「もっと増して欲しい」という意見が23.5%あった。

⑥子どもの遊び環境（複数回答）

遊び環境を見ると、「近所に公園などの広い遊び場がある」71.2%、「近所に遊び仲間がいる」66.6%が挙げられている。また、交通量に関しても「多い」より「少ない」方の数値が高かったことから、おおむね良好な遊び環境に恵まれているといえる。

⑦児童館以外での習い事の有無・種類・回数

児童館での親子体操以外に習い事をしている子どもは、38.0%であった。男女別に見ると、わずかではあるが女児に多い。

習い事の種類（複数回答）で見ると、「水泳」が最も高く、次いで「ピアノ・エレクトーン」であった。男女別では、「水泳」は男児に多く見られ、「ピアノ・エレクトーン」は女児に多い。

児童館の親子体操を含めた習い事の実数は、「週2回」が47.9%で最も多く、次いで「週3回」「週2回」の順であった。男女別に見ると、男児の方が週当たりの習い事は多い傾向にある。

⑧ 保育希望年数

「2年保育」を希望する母親が59.1%で、最も多い。次いで「1年保育」23.3%、「3年保育」8.2%であった。男女別で見ると、男児の母親の方が保育年数を長く希望する傾向にある。

⑨ 運動の得意別（母親） 省略

⑩ 体育プログラムへの希望種目（複数回答）

「リズム・体操」の希望が79.4%で最も高く、次いで「ゲーム的遊び」49.3%、「ボール」43.3%、「マット」40.5%、以下「表現」、「平均台」、「跳び箱」、「鉄棒」の順であった。男女別に見ると、「ゲーム的遊び」「鉄棒」「マット」「跳び箱」「平均台」に余り差は見られないが、「ボール」「表現」は男児の母親に希望が多い。それに対し、「リズム・体操」は女児の母親に希望が多い。

⑪ 体育プログラムの効果（複数回答）

最も効果の高かった内容は、「友達が増した」42.8%で、以下「協調性が増した」、「動くことが好きになった」「きまり・約束を守るようになった」「積極的になった」「自信を持つようになった」「運動の技術が身についた」などが挙げられる。

4. まとめ

今回の調査により、考察すべき基礎事実を次のようにまとめることができよう。

1) 体育プログラムに対する要望

母親が親子体操に通う目的およびその効果として、以下の3つを順位づけすることができる；①社会性の育成 ②身体の発育（運動技術も含む）③性格形成。これらの項目を、親子体操への要望として捉えることができる。

2) 母親の教育観

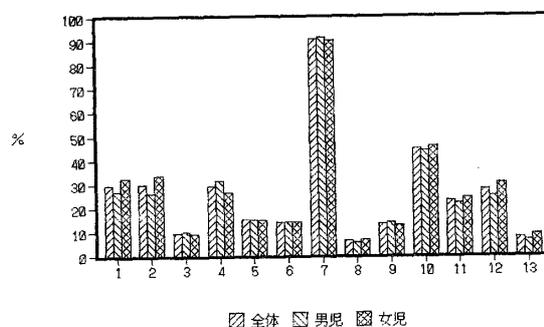
児童館に通う母親が持つ教育観自体は別にして、調査結果⑦、⑧からわかるように、母親が子どもにどの

様なことを望んでいるかによって、母親の態度を積極派と非積極派の2つのグループに分けることができよう。

3) プログラムに参加する母と子の生活環境

生活環境については子どもの遊び場所、遊び仲間の貧困から児童館の必要性があるのではないかと推測した。しかし、児童館に通う子ども達の遊び環境はおおむね良好である。このことから、児童館の利用は母と子の意思に大きく依存しているであろう。

体育プログラムに通う目的



- | | |
|------------|---------|
| 1. 健康 | 8. 忍耐力 |
| 2. 体力 | 9. 礼儀 |
| 3. しつけ | 10. 積極性 |
| 4. 就学前に役立つ | 11. 自信 |
| 5. 集中力 | 12. 自立心 |
| 6. 運動技術 | 13. その他 |
| 7. 集団生活 | |

児童館以外の習い事の有無

